

## 課題情報シート

課題名：	小倉 2050		
施設名：	九州職業能力開発大学校		
課程名：	応用課程	訓練科名：	居住・建築システム技術系
課題の区分：	開発課題	課題の形態：	研究開発

### 課題の制作・開発目的

#### (1) 課題実習の前提となる科目または知識、技能・技術

建築計画学、建築設計、初歩的な都市計画、建築社会学、歴史、社会・生活・環境・経済・技術の変遷と潮流

#### (2) 課題に取り組む推奨段階

3年後期から徐々に、4年次秋期にかけて行います(理論形成)。4年次最終段階は外部に対しての発表を行います(世論形成・政策形成)。

#### (3) 課題によって養成する知識、技能・技術

①現状の問題点と課題抽出・分析能力、建築・都市の専門領域と統合的視点(社会・生活・環境・経済・新技術との繋がり)の素地。②専門領域に都市的・社会的・コモンの視点を新たに加え、環境に配慮した持続可能なストック型社会への転換に向けた建築生産側の設計技術。

#### (4) 課題実習の時間と人数

人数：4名

時間：約 500 時間

取組んだ学生たちが 2050 年には、概ね高齢者の仲間入りを目前にする時代であり、国の総人口の 40%が 65 歳以上という凄まじい人口構成になっています。このままでは極めて厳しい時代、社会が待ち受けている可能性が高いと思われます。建築と都市（生活の場）及び社会・生活・環境等を結びつけて現在やこれからの建築生産に何を付加していかなければならないかを考えた開発研究を行いました。

### 課題の成果概要

今回開発研究した「小倉 2050」は、42 年後の小倉の姿について、バックキャストिंग的考え方をうい、ストック型地域設計手法で図 1～5 に示すモデル等の開発提案を行いました。

そして、その提案内容を（財）西日本産業貿易コンベンション協会（経産省系）主催の第 27 回西日本トータルリビングショーで展示発表し、ブースに訪れた 200 名以上の方々に説明を行い、その後地元研究機関、企業、自治体、国政レベル関係者には、基礎資料として活用されています。



図1 小倉 2050年の姿



図2 2050年の紫川周辺



図3 減築により緑化を推進



図4 持続可能な都市インフラ



図5 アロケーション

### 課題制作・開発の訓練ポイントおよび所見

現在、国内には700万戸の住宅の空家が存在するといわれながら、寿命の短い住宅の供給が行われています。資源の問題、地球環境の問題等からみても、この問題を正面から捉えた統合的な教育プログラムはまだ少ないようですが、学生が社会に出て行けば、近い将来、この付加的な設計・建築生産の概念が一般化します。今春の超長期優良住宅に係る法制化などは国策レベルでその方向に向いはじめました。また、従来の敷地の中だけでなく、住環境という広い面で、街区レベルでの長寿命化が模索されはじめています。道州制が導入されていけば、生活しやすいとかどうかでその基本自治体の存亡につながってきます。広く統合的な魅力ある街づくりのパラダイムが必要となってきます。

住宅・建築・都市・社会・生活・環境・経済という視点で建築生産を考え、企画・技術・提案力を身につけさせ、大学から発信したクリエイティブなものづくり情報を社会が受け入れてくれるかどうかを考えさせながらの取り組みを行います。サーベィを行い、機会あるごとに学生に学外での発表の場を設け、外部の意見を聴きながら進めていきました。

部分最適解を避けながら最適解をどう求めていけばいいのかを思考し、企画力、設計力、プレゼンテーション力等を高め、コミュニケーション力、調整力、リーダーシップ力を高めていきました。

養成する能力 (知識、技能・技術)	課題制作・開発のポイント	訓練（指導）ポイント
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 時代性・社会性事項読解分析力</li> <li>○ 公的データ分析力・図式化力</li> <li>○ 社会資産の企画・設計力</li> <li>○ プレゼンテーション能力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 九州能開大から日本・アジアへ向けて情報発信</li> <li>◇ 広くひらかれた 21 世紀型の「ものづくり」、「価値づくり」を目指します</li> <li>◇ 社会・時代とのかかわりの強い認識</li> <li>◇ 社会資産づくりという視点</li> <li>◇ 持続可能なストック型社会の形成を目指します</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 3 年次までの素地に加えて新規分野はゼミ・演習に特化する教育プログラムで対応します。</li> <li>● 国内外問わず他流試合を複数回経験させます。</li> <li>● 3 月に外部で大きな展示発表を行います（ブース来客約 500 名／3 日）。</li> </ul>

#### 課題に関する問い合わせ先

**施設名** : 九州職業能力開発大学校  
**住所** : 〒802-0985  
 北九州市小倉南区志井 1665-1  
**電話番号** : 093-963-0125（代表）  
**施設 Web アドレス** : <http://www.ehdo.go.jp/fukuoka/kpc/>